



更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



1958(昭和33)年8月19日 NHK「朝の訪問」収録
更科(左)と伊藤整



伊藤整文学碑除幕式で祝辞を述べる更科(1970年5月24日)



雪明りの叢書第8号『思い出の伊藤整』

伊藤整は1905(明治38)年に松前町で生まれ、小樽の近く、塩谷で育ちました。小樽中学校へ進んでから詩歌に目覚め、同人雑誌を発行するなど文学活動を始めます。更科と伊藤整の出会い、詩人尾崎喜八の選で1925(大正14)年に発行された詩雑誌『抒情詩』に、伊藤整と更科の詩が掲載されたことがきっかけでした。その後、手紙でのやり取りがあり、1927(昭和2)年に尾崎喜八や東京の仲間たちも引き込んで鉚路から発行していた詩雑誌『港街』に、2号から伊藤整を更科は参加させていますが、顔を合わせることができたのは1928(昭和3)年になってからでした。

1928年3月、詩雑誌『港街』を改題する相談で、仲間たちがいる東京へ行くことになった更科は、一緒に東京へ行くよう伊藤整を誘いに塩谷を訪ねます。伊藤整はこのとき、小樽高等商業学校(現・小樽商科大学)を卒業し、小樽中学校の教員をしていました。

伊藤整は東京商科大学(現・一橋大学)へ進み、少しの間、更科と疎遠になっていました。1935(昭和10)年、伊藤整の紹介状を持って、弟子屈市街で印刷屋をしていた更科を訪ねてきた詩人から、伊藤整を作

家にするため「卒業すると、何処かの銀行マンかになってしまふ。何とか彼を卒業させないようしようって、皆がよってたかって最後に納める授業料を飲んでしまつて」という話を聞きます。都会の人たちの次元の違うたくましさ、原野に住む更科は感心してしまいます。伊藤整は、友人たちの努力と協力もあってか大学を卒業せず、その後、作家・評論家として活躍していきます。

伊藤整は、東京工業大学の教授や、日本近代文学館の初代理事長・高見順の後を引き継ぎ第2代理事長を務めるなど、日本の近代文学を代表する人物となっています。1970(昭和45)年5月、伊藤整の業績を顕彰するため、ふるさと塩谷のゴロダの丘に文学碑が建立されましたが、前年の11月に他界していました。

文学碑の除幕式の祝辞で更科は「北海道にもいくつかの文学碑があるが、ふるさとの人だけの愛情に抱かれてきたものは、この碑だけ」と述べます。「偉くなった俺達の仲間の整さんを喜ばしてやるべ」と、この文学碑を建立してくれた人たちへ、古い同志の一人として感謝する言葉でした。



図書館だより

中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆特集展示

『原作本特集2013』

毎回人気のこの企画、今年もやります！
今年も、たくさんさんの小説が映画化・ドラマ化されました。見てから読むもよし！読んでから見るもよし！作品の面白さを、ぜひ活字でお楽しみください。

▼場所/特集展示コーナー
▼期間/11月1日(金)~11月30日(出)

☆『図書館バス』をご利用ください

毎週木曜日、図書館バスが町内の各ステーションを巡回しています。運行表は図書館・川湯支所に掲示しているほか、町のホームページからも確認いただけます。

「図書館で借りてバスで返す」「バスで借りて図書館で返す」こともできます。

新刊案内

- 「代官山コールドケース」 佐々木 讓/著
 - 「もう一枝あれかし」 あさのあつこ/著
 - 「葬式川柳」 葬式川柳倶楽部/選
 - 「ゆめにつき」 ききやま/原作 日比/執筆
 - 「エニアグラムで分かる9つの性格」 ティム・マクリン/監修
 - 「心配事の9割は起こらない」 柁野 俊明/著
 - 「PPPで激増する危ない食品！」 石堂 徹生/著
 - 「食記帖」 細川 亜衣/著
 - 「パンダ銭湯」 tupera tupera/著
 - 「風立ちぬ 徳間アニメ絵本」 宮崎 駿/原作 脚本・監督
- たくさんさんの新刊が皆さんをお待ちしています！

おすすめの新聞

そして父になる

是枝 裕和・佐野 晶/著



「6年間育てた息子は、他人の子でした」大切に育ててきた6歳の息子。彼は、出生時に病院で取り違えられた他人の子どもだった。福山雅治主演で、カンヌ映画祭・審査員賞を受賞した映画『そして父になる』。是枝監督自身による渾身(こんしん)のノベライズ企画です。

「やすもっと」も合わせてご利用

川湯EMCに隣接している建物は、休憩所や会議室としてご利用いただけます。その名も「やすもっと」。長机、椅子、ホワイトボード、暖房を完備しています。川湯EMCには個室がないので、団体対応の場として提供しているスペースです。中には、てしかが郷土研究会による収集品や、阿寒国立公園の自然を説明したパネル、小枝やマツボックリなどの自然素材で作ったクラフトが並んでいます。ゆっくり眺めながら一休みしてください。30人程度まで収容可能。研修会や会議、昼食場所としてどうぞ！(事前にご予約ください)



「やすもっと」もご利用ください

EMC通信

～川湯の森から～

川湯EMCは木造2階建てです。1階は、阿寒国立公園の川湯・摩周・屈斜路地域を紹介する展示や映像をご覧いただけます。2階スペースの活用をお待ちしています

2階は皆さんのためのスペースです

1階へ出かける前の情報収集の場として、ゆっくりと時間を過ごすつろろぎの場として、ご利用いただいています。

そして、2階はというと...こちらは、皆さんに作っていただくスペースとなっています。これまで、編み物やパッチワーク、バードカービングといった手工芸の作品展、周辺地域の風景や動植物を撮った写真展、イラストレーターさんによる似顔絵展などを開催。キノコの標本がずらりと並んだこともありました。趣味の作品やライフワークの成果を披露してみませんか。句会や本の読み聞かせといったサークル活動をしたい、ちょっとした打ち合わせにといったことも大歓迎です。使用料はかかりませんので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

川湯エコミュージアムセンター(EMC)

☎483-4100 URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 11月は9:00~16:00開館(水曜日休館)